

2021/9/8-2

(うとQ世話し 逆)

最近「上級国民」という言葉をよく見かけます。

自分の解釈では「厚遇や優遇、又は見逃しにせよ特別扱いを受ける事」を「上級」と言っているのだと思います。

或いは単に「地位が高い事」の代用詞なのかもしれません。

しかし後者の場合、民間の著名人は別として政治家やお役人は国民の「公僕」ですから地位的には国民の下であると解釈するのが妥当でしょう。

詰まり国民諸氏が上で、政治家、お役人さんが下という位置関係。

次に数で言うと国民諸氏が圧倒的に多く、政治家、お役人さんの数は明らかにそれ以下です。それを図で表すと逆三角形が出来ます。総理大臣一名を頂点としたそのひっくり返しです。それでもし、この大多数の「上級(上位に位置する)」国民諸氏が一齐にその下の政治家やお役人さんに「個々人の千差万別な要求を全て満しているか」と事ある毎に逐一の細かいチェックを入れ始めたらどうなるか？

身近な例で言えば主任さん一人に課長が100人

「早く仕事をしろ」

「早く成果を出せ」

「机が散らかっている」

「誤字だらけだ」

等など一挙手一投足にお小言をたれる様な場合、皆さんはどう感じますでしょうか？

いい加減うんざりするか怖くて何も手が出せなくなってしまうのではないのでしょうか？

勿論主任さんの中には反対に「モンスター主任」もおります。

「業者泣かせ」や「リベート要求」主任さん。

しかし此処で申し上げたいのは「自分の属性上の位置」に関する再認識が必要なのではないかと言う事です。

例えば我々国民大多数の方が「上位、上級」で、その我々が自らの地位を無意識かもしれませんが乱用し、下僕(しもべ)である目下、格下の公僕にこうまで悪態をついたり、事細かにチェックを入れたり、人格破壊を起こしかねない様なレベルの言葉を吐きかけたりしたら。

それは上位者がする行為なのか。

少なくとも上位者であれば今少し長い目で「その下位の者の仕事」を見守る必要もあるのではないか？

というのも、する片端からこうも煩く言われると「行為者自身」が萎縮し却って大胆な手が打てなくなってしまうからです。

ひいては「萎縮によって人目やその評価を気にする余りその時期を逸する不手際」で我々国民に重大な不利益となって跳ね返ってくる様な気がするからです。

池袋での「上級国民」の行為とその後の態度は許せません。

過失もないのに亡くなられた方、残された方の無念を思えば怒り心頭です。

しかしその輩を「上級国民だ」と責め続けている我々も又ある時点の或人々に対して「上位位置者（国民上級）」である認識を持つ必要がある気がします。

「民の声は全て聞け」

というのは投げ手と受け手の「数」から言えば不可能です。

あり得ない解を求めて性懲りなく押し問答を繰り返していれば「機会損失リスク」が増大するだけの様な気がするのですが如何でしょう。

従業員感染時の保健所の方々の制約だらけの中での苦勞に接し、そう感じております。